

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅰ	開講学科	スペースデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2026年度・1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	吉川 友司(建築設計事務所にて、戸建住宅・集合住宅・店舗・展示会等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	住宅を中心に各施設計画における用語や基本的な考え方を理解する。そのうえで、実際の建築事例の平面図を用いて、計画学的読解力を高める。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1～6回	建築計画の基本知識	■単位と寸法 建築で使用される長さ及び面積の単位、建築に関わる寸法の種類、動作空間と単位空間、人体寸法、動作空間、高さや奥行に関わる寸法 ■建築計画の進め方の基本 モジュールとモデューラーコーディネーション、様々なグリッドタイプ、量の寸法、量の敷き方、グルーピングとゾーニング、動線空間、分割法と連結法、経済的管理に関する計画
第7～12回	各部および単位空間の計画	■各部の計画 扉、窓、屋根、階段 ■単位空間の計画 廊下、便所、浴室、就寝のための空間、食事のための空間、会議・学習・執務のための空間
第13～17回	独立住宅の計画	■独立住宅における平面計画と配置計画の原則 平面計画の原則、配置計画 ■独立住宅における諸室の計画 居間、食事室、夫婦寝室、子供室、老夫婦室、書斎、家事室、浴室、洗面室・脱衣室、便所、応接室・客間、玄関、廊下、階段、押入・クローゼット・納戸 ■独立住宅の平面形式 平面計画(プランタイプ)について、日本の伝統的な住宅にみられる平面形式について ■独立住宅の事例 日本の代表的事例、日本のその他の事例、諸外国の事例 ■独立住宅の工法 住宅の工法に関する用語、各種工法
第18～23回	集合住宅の計画	■集合住宅の型式と分類 アクセス形式による分類①、アクセス形式による分類②、アクセス形式による分類③、住戸の断面形式による分類、住戸群の関係による分類、様々なタイプの集合住宅①、様々なタイプの集合住宅② ■集合住宅の計画上の要点 集合住宅の長所・短所、住戸の平面計画について ■集合住宅の事例 日本の代表的事例①、日本の代表的事例②、日本の代表的事例③、諸外国の代表的事例①、諸外国の代表的事例② ■集合住宅地の計画 集合住宅地とは、集合住宅地の計画手法
第24～29回	事務所の計画	事務所の構成／ゾーニングと動線、事務所に關する計画上の重要事項、事務所の実例分析、事務所に關する計画上のその他留意点、事務所に關する計画上のその他留意点
第30～34回	商業建築の計画	商業建築の歴史と発展、ショッピングセンターの形態、商業建築の形式と分類(飲食店)、商業建築の形式と分類(物品販売店)、事例研究

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築史	開講学科	スペースデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・1年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	吉川 友司(建築設計事務所にて、戸建住宅・集合住宅・店舗・展示会等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築の歴史を学ぶという事は、先人たちが行ってきた建築的な試行錯誤の跡の確認であり、現在あるいは未来という時代に必要とされている建築行為を見定めるために不可欠な身の構えである。この科目では建築史の基礎を学ぶとともに建築史への興味を抱かせること。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 日本建築史	ガイダンス・授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回		1:竪穴式住居と高床式建物(三内丸山遺跡)／2:古代の神社建築(伊勢神宮/出雲大社)
第3回		3:仏教建築の伝来(法隆寺金堂)／4:古代の都市計画と住宅(平安京、平城京)
第4回		5:浄土教の建築(平等院鳳凰堂)／6:中世の仏教建築(浄土寺浄土堂)
第5回	2. 日本近代建築史	7:中世の神社建築(厳島)／8:中世の住宅から書院造へ
第6回		9:城郭建築(姫路城)／10:茶室と数寄屋(桂離宮)
第7回		11:近世の寺社建築(善光寺、日光東照宮、栄螺堂)／12:民家
第8回		1:西洋文化の移入(グラバー邸/富岡製糸場)／2:日本人建築家の誕生(東京駅/日本銀行)
第9回	3. 西洋建築史	3:洋式建築の展開と新しい様式の模索／4:都市計画および構造技術の発達
第10回		5:モダニズム建築の到来／6:戦後復興から高度成長期にかけて(広島平和記念館)
第11回		7:戦後の住宅政策とDK住宅の誕生／8:日本建築界からの発信
第12回		9:モダニズムの先を求めて(つくばセンタービル/京都駅ビル/せんだいメディアテーク)
第13回	4. 西洋近代建築史	1:エジプト建築(ギザのピラミッド)／2:オリエント建築
第14回		3:ギリシア建築(パルテノン神殿)／4:ローマ建築(パンテオン、コロッセウム)
第15回		5:初期キリスト教建築／6:ビザンティン建築
第16回		7:イスラム建築／8:ロマネスク建築
第17回		9:ゴシック建築／10:中世の世俗建築
第18回		11:ルネサンス建築／12:バロック建築／13:リヴァイヴァル建築
第19回		1:新材料を用いた構築物(1851ロンドン万博/1889パリ万博)／2:都市問題・住宅問題
第20回		3:アーツ・アンド・クラフツ運動(マッキントッシュ)
第21回		4:アール・ヌーヴォ(オルタ、ギマール、ガウディ、モンタネル)
第22回		5:アメリカ建築の近代化(シカゴ高層建築)／6:セセッション(ヴァーグナー)
第23回		7:鉄筋コンクリート造建築の登場／8:ドイツ工作連盟(AEGタービン工場)
第24回		9:近代建築運動(シュレーダー邸)
第25回		10:モダニズム建築の完成と流布(グロピウス、ミース、コルビュジェ、ライト)
第26回		11:アール・デコとスカイスクレイパー(クライスラー/エンパイアステートビル)
第27回		12:第二次世界大戦後の建築(シドニー・オペラハウス)
第28回		13:ポストモダニズム建築(ポンピドー・センター/香港上海銀行)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築一般構造	開講学科	スペースデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2026年度・1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀(エネルギー事業会社で、地域開発業務、戸建て・集合住宅等の企画・設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築構造全般、木構造、鉄筋エンクリート構造を中心に、建築物の骨組みや仕上げの構成を理解して、基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドや動画などの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュール
第2回	建築工法の概要	構法の変遷、構造の分類①
第3回		構法の変遷、構造の分類②
第4回	木質構法	木質構法の種類
第5回		木材(建築用木材)①
第6回		木材(建築用木材)②
第7回		木材(木質材料)
第8回		基礎、地盤調査、地業
第9回		軸組工法①
第10回		軸組工法②
第11回		軸組工法③
第12回		軸組工法④
第13回		軸組工法⑤
第14回		軸組工法⑥
第15回		軸組工法⑦
第16回		軸組工法⑧
第17回		その他構法
第18回		枠組壁工法、大断面集成材工法
第19回	鉄筋コンクリート構造	構造形式と構造の原理
第20回		コンクリート(セメント、骨材、混和材)①
第21回		コンクリート(セメント、骨材、混和材)②
第22回		コンクリート(調合)①
第23回		コンクリート(調合)②
第24回		鉄筋(種類と強度)①
第25回		鉄筋(種類と強度)②
第26回		鉄筋(加工と継手、かぶり厚さ、定着)①
第27回		鉄筋(加工と継手、かぶり厚さ、定着)②
第28回		ラーメン構造①
第29回		ラーメン構造②
第30回		ラーメン構造③
第31回		ラーメン構造④
第32回		ラーメン構造⑤
第33回		ラーメン構造⑥
第34回		その他RC構造

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築施工	開講学科	スペースデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・1年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	篠原 範之(建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	将来インテリア・建築に関連する業務において、知っておくべき最低限の現場実践的な知識の理解を目指す。建築施工の流れや、契約から鉄筋コンクリートの躯体ができるまでを中心に、施工方法等の基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	契約・計画・管理	ガイダンス 教材の説明と授業の進め方
	契約・仕様書	
第2回	施工計画	工事計画 施工計画 工程計画
	施工管理	
第3回	工事準備	現場 安全 材料 品質管理
第4回	各部工事	仮設工事の要点 種類 仮囲い 足場 棧橋 架設通路 安全施設
	仮設工事	
第5回	土工事	地盤調査 土工事 地業工事 杭工事
	地業工事	
第6回	基礎工事	鉄筋の種類 鉄筋の加工・組立 定着 継手
	鉄筋工事	
第7回	型枠工事	型枠の材料 加工・組立 解体 特殊工法
	コンクリート工事	
第8回	鉄骨工事	コンクリートの材料 用語 調合 製造 運搬・打込・養生 品質管理・試験方法等
	組積工事	
第9回	木工事	材料 工場作業 接合 現場作業 耐火被覆
	防水工事	
第10回	左官工事	補強コンクリートブロック工事 ALC工事 れんが工事
	タイル工事	
第11回	石工事	材料 加工 造作工事 枠組壁工法
	塗装工事	
第12回	建具工事	防水の種類 メンブレン防水工事 シーリング工事
	ガラス工事	
第13回	内装工事	各種下地 塗り工事 吹付け工事
	断熱工事	
第14回	設備工事	種類と特性 素地ごしらえ 工法
	各種工事	
第15回	施工用語	給排水衛生 建築と設備の関連
	施工機械器具	
第16回	その他	屋根工事 金属工事
	積算	
第17回	測量	揚重・運搬用機械 土工事用機械 各種工事用機械 工法と工事等の関係
		工事費の構成 積算用語 積算の基本事項 各種工事の歩掛り・割増率
		縄張り・やりかた 各種測量

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅰ	開講学科	スペースデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2026年度：1年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	岡野 勇(建築設計事務所で、教会設計、土気ヒルズと沢山の街並み計画、実施設計、その他数々の住宅を手掛け新築からリフォームまでインテリア、エクステリア、ライティングまでトータルにデザイン設計を行う経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	「建築製図Ⅰ」では、主に木造住宅の基本や特徴を、実務的な図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、更に手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解することを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	建築製図Ⅰの目的と概要、図面の見方、其の他基本的注意事項
第2・3回	2. 基礎製図	用具の使い方・線の練習
第4・5回	3. 木造住宅	求積図・案内図／一般事項・基本寸法・面積算出の説明
第6・7回		配置図・平面図1・100／配置図の目的と描き方・配置の意味 敷地の形状・高低差・方位・敷地境界線までの距離
第8・9回		1・2階平面図1・100／平面図の読み方・描き方の説明
第10・11回		1・2階平面図1・100／柱・壁・窓・出入口・・・などを理解する
第12・13回		1・2階平面図1・100／真壁・大壁の違いを理解する
第14・15回		1・2階平面図1・100
第16・17回		立・断面図1・100／立断面図の見方・描き方の説明
第18・19回		立・断面図1・100／床高・天井高・軒高・内法高・・・などの意味
第20・21回		立・断面図1・100
第22・23回		立・断面図1・100
第24・25回		矩計図1・20／矩計図の見方・描き方の説明
第26・27回		矩計図1・20／各階の基準寸法の理解・軒の出・窓の描き方
第28～30回		矩計図1・20／各階の詳細部分の理解・表現の描き方
第31～34回		矩計図1・20／まとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	設計演習Ⅰ	開講学科	スペースデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度：1年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也（実務経験を持つ商業施設士であり、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。） 吉竹 徹（店舗デザインを中心に商業施設・公共施設や住宅建築などの企画・デザイン・設計を行い、自らのデザイン事務所を20年主宰している、インテリアデザインの実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	都内の住宅系用途地域、及びその周辺地域にある計画地を設定し、都市型戸建て住宅、及び店舗併用住宅を設計する。店舗併用の場合、店舗と住宅という異なる機能・用途をひとつの建築として破綻なくまとめ、デザインしていくことが重要なポイントとなる。計画地とその周辺の調査・分析、法的条件による建築ボリュームの把握、施主のライフスタイルやライフサイクルへの配慮、コンセプトの策定からエスキース、プランニングを行い、各階平面図・天井伏図・断面図・立面図ファサード、パース、模型作成に至る一連のデザイン作業を行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1・2回	1. 住宅設計の概要	ガイダンス、住宅設計の概要説明
第3・4回	2. 住宅設計の考え方	計画地・周辺環境調査・分析、法的条件チェック、コンセプト、プランニング、デザインの考え方
第5～9回	3. 住宅設計の練習課題	短期設計①
第10～14回	〃	短期設計②
第15回	4. 店舗併用住宅の設計	課題説明
第16・17回	5. 調査・分析	与えられた複数の計画地及び周辺環境リサーチ
第18・19回	〃	法的条件による建築ボリュームの把握
第20～26回	6. プログラミング(設計条件の設定)	計画地、クライアントプロフィールなどの条件設定、施設構成、機能の設定
第27～35回	7. プランニング (イメージ・コンセプト構築)	プランニング、コンセプト・イメージ・ゾーニング・動線・空間構成等の検討
第34～42回	8. デザイン (建築・インテリア計画)	平面・立断面・ボリュームスケッチ等作成
第43～56回	9. ビジュアライゼーション 視覚化(図面・模型作成)	コンセプト・計画概要・配置図、各階平面図・立面図・断面図、外観パース・内観パース・模型など
第57～60回	10. プレゼンテーション(発表)	成果物をもとに各自が作品についてのプレゼンテーションを行なう。各作品に対する講評を行なう。
第61～68回	11. 成果物まとめ	成果物まとめ・修正・データ提出

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	設計演習Ⅱ	開講学科	スペースデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	3単位(102時間)	開講・履修期	2026年度：1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也（実務経験を持つ商業施設士であり、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。） 吉竹 徹（店舗デザインを中心に商業施設・公共施設や住宅建築などの企画・デザイン・設計を行い、自らのデザイン事務所を20年主宰している、インテリアデザインの実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	都内の商業系用途地域、及びその周辺地域にある計画地を設定し、複合商業施設を設計する。 計画地とその周辺の調査・分析、法的条件による建築ボリュームの把握、コンセプトの策定からエスキース、プランニングを行い、各階平面図・天井伏図・断面図・立面図ファサード、パース、模型作成に至る一連のデザイン作業を行う。物販・飲食・サービス業種などを含む複合商業施設についての考察と一連のフローに基づく設計演習を行い、立地・敷地条件等に対する判断力、施設構成や空間構成に至る柔軟な発想力とデザイン力を培うことを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1・2回	1. 複合商業施設の概要	ガイダンス、商業施設設計の概要説明
第3・4回	2. 複合商業施設の考え方	計画地・周辺環境調査・分析、法的条件チェック、コンセプト、プランニング、デザインの考え方
第5回	3. 複合商業施設の設計	課題説明
第6～8回	4. 調査・分析	与えられた計画地をリサーチ、類似施設調査
第9～12回	5. プログラミング(設計条件の設定)	法的条件チェック、施設構成、機能の設定
第13～20回	6. プランニング (イメージ・コンセプト構築)	プランニング、コンセプト・イメージ・ゾーニング・動線・空間構成等の検討
第21～28回	7. デザイン (建築・インテリア計画)	平面・立断面・ボリュームスケッチ等作成
第29～44回	8. ビジュアライゼーション 視覚化(図面・模型作成)	コンセプト・計画概要・配置図、各階平面図・立面図・断面図、外観パース・内観パース・模型など
第45～48回	9. プレゼンテーション(発表)	成果物をもとに各自が作品についてのプレゼンテーションを行なう。各作品に対する講評を行なう。
第49・51回	10. 成果物まとめ	成果物まとめ・修正・データ提出

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD製図 I	開講学科	スペースデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度：1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也（実務経験を持つ商業施設士であり、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアの両概論、及びその機能と働きを理解すると共に、オペレーティングシステムとの関係について学んだ上で、製図の基礎知識とCADの総合的な知識を融合し、建築やインテリアデザインの設計製図に活用することを目指す。1年次ではCADソフトVector Worksによって建築及びインテリアの図面を描く。設計課題にリンクし図面を描けるようにする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、図面を作成する過程で各種のコマンド操作やCAD図面の作図方法を学ぶ。また、他の3D・CGソフト及びプレゼンテーションソフトとのリンク方法を学ぶ。理解が出来たかを確認するため、小テストを実施して各自のスキルを確認できるようにする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. コンピューター基礎概論	コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアの両概論、及びその機能と働き
第3回～ 第6回～ 第8回～	3. VectorWorks基本操作	OS／Mac概論(Macの画面構成／基本操作) OS／Mac概論(Macの画面構成／基本操作)
第12回～ 第15回～ 第17回～ 第19回～		VectorWorksの基本環境設定と操作の基本 VectorWorksの基本操作の練習1 VectorWorksの基本操作の練習2 VectorWorksの基本操作の練習3
第21回～ 第24回～ 第27回～ 第29回～ 第31回～ 第33回～ 第35回～ 第37回～ 第39回	4. VectorWorks基礎製図練習	VectorWorksによるCAD図面作成1(平面図概要) VectorWorksによるCAD図面作成2(平面図の作成1) VectorWorksによるCAD図面作成3(平面図の作成2) VectorWorksによるCAD図面作成4(平面図の作成3) VectorWorksによるCAD図面作成5(平面に関する建具図作成) VectorWorksによるCAD図面作成6(立面図の作成) VectorWorksによるCAD図面作成7(断面図の作成) VectorWorksによるCAD図面作成8(図面の総合学習) VectorWorksによるレイアウトとデザイン
第41回～ 第44回～ 第47回～ 第50回～ 第53回～ 第56回～	5. VectorWorks製図練習	CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習（作図の為の基礎知識） CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習（家具図） CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習（展開図1） CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習（展開図2） CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習（断面図1） CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習（断面図2）
第60回～ 第63回～ 第66回～ 第68回	6. プレゼンテーション総合演習	CADを利用したプレゼンテーション総合演習1 CADを利用したプレゼンテーション総合演習2 CADを利用したプレゼンテーション総合演習3 プレゼンテーション総合演習(まとめ)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	パース演習	開講学科	スペースデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2026年度・1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	前島 和也(パース事務所を主宰する実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築やインテリアの設計プロセスにおける空間のイメージスケッチや完成予想図としてのパース(透視図)の作成技法を習得する。具体的には①1点透視図法②2点透視図法③グリッド法などの基本的な作図手順から、パステル・色鉛筆などによる着色までを学ぶ。また、この授業内容と関連する『インテリアコーディネーター』、『商業施設士』資格取得への足掛かりとなることを目指すものである。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、参考建物の見学・スケッチなど、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2～3回	1、フリーハンドによるスケッチ	①図法による作図を行う前に、フリーハンドで簡単な立体を描かせることにより、デッサン力を養う。
第4～5回	2、建物スケッチ	①江戸東京たてもの園などに行き、明治・大正・昭和の建物群を見学し、その中の1つの建物をスケッチする。
第6～9回	3、1点透視図・グリッド法による作図	①1点透視図・グリッド法で簡単な立体から室内パースの作図及び着色を行う。
第10～13回	4、2点透視図による作図	①2点透視図で簡単な立体から建築外観パースの作図及び着色を行う。
第14～19回	5、店舗併用住宅の着色パースを描く	設計演習Ⅰと連動し、自分がデザインした商業施設の着色パースを描く。イメージスケッチ、下絵、インキング、着色まで一通りのスキルを身につける。
第20～25回	6、ショップの着色パースを描く	①インテリアデザインⅠと連動し、自分がデザインしたショップの着色パースを描く。イメージスケッチ、下絵、インキング、着色まで一通りのスキルを身につける。
第26～34回	7、商業施設の着色パースを描く	①設計Ⅱ(進級制作)と連動し、自分がデザインした商業施設の着色パースを描く。イメージスケッチ、下絵、インキング、着色まで一通りのスキルを身につける。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	デジタルプレゼンテーション	開講学科	スペースデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2026年度:1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也(インテリアデザイン事務所、不動産会社にて、商業施設の開発、店舗の設計管理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	「illustrator」「photoshop」を主としたデジタルツールの操作習得を通し、自身が計画した提案を、他者へ的確に伝えるプレゼンテーション能力を身に着けることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、実務において汎用性の高い「illustrator」「photoshop」の操作習得し、効果的な提案資料作成の基盤を作る。また、設計課題とも連動し、より実践的な提案資料の作成、プレゼンテーションについても学ぶ。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1・2回	1. パソコンを使用する準備	・アプリケーション(illustrator、photoshop)のインストール
第3～6回	2. プレゼンテーションの基礎	・提案与件の整理について ・ビジュアルプレゼンテーションについて
第7～12回	3. Photoshopの基礎	・ラスターデータとベクターデータ ・ピクセル・解像度について ・レイヤー・マスクについて ・画像の切り抜き
第13～16回	4. Photoshopの応用(1)	・背景、添景の合成 ・人の合成 ・写真補正(レベル補正 アンシャープ機能 陰影付けと修正)
第17・18回	5. Photoshopの応用(2)	・CG用テクスチャーの作成 ・手描き風写真加工
第19～24回	6. illustratorの基礎	・[線]：ペンツール、ペジェ曲線、アンカーポイント、パス、ブラシ ・[面]：面作成、レイヤー前後関係、加工、パスファインダー ・[カラー]：カラー設定、スウォッチ登録、グラデーション ・トレースチャレンジ・ライブペイント ・[文字]：文字設定、段落設定、文字のレイアウト、フリーフォントの活用 ・[画像配置]：解像度おさらい、画像のリンク、埋め込み、ライブトレース、ラスタライズ
第25～28回	7. illustratorの応用(1)	・レイアウトのルール、手順・フォントの選定 ・学生名刺の作成
第29・30回	8. illustratorの応用(2)	・VectorからIllustrator、図面の着色、ドロップシャドウ
第31～34回	9. プレゼンテーションの実践	・Powerpointの基本 ・プレゼン資料(スライド)の考え方 ・設計演習課題との連動(スライド、ビジュアルデータの作成)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	インテリアデザイン I	開講学科	スペースデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度・1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉竹 徹（店舗デザインを中心に商業施設・公共施設や住宅建築などの企画・デザイン・設計を行い、自らのデザイン事務所を20年主宰している、インテリアデザインの実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	立地周辺の調査・分析、施設条件の把握、ターゲットの設定、ストアコンセプト・デザインコンセプト・MDコンセプトの策定から平面図・天井伏図・展開図（断面図）・立面図（ファサード）、パース・模型作成に至る一連の実践的デザイン作業を行い、商空間デザイナーとしての基本的なスキルを身に着けることを目的とする。その集大成として、商業施設内の1テナント区画を設定し、そこにふさわしい業態の小規模店舗を設計する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考施設の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドや動画などの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教材・スケジュール・評価方法などを説明
第2～9回	2. 物品販売業態の店舗設計	①物品販売業態の店舗リサーチ:レポート作成 ②店舗レイアウト、店舗ファサード計画、商品陳列台 ③ロゴデザインとサイン計画 成果物: レイアウト計画/ファサード計画案/商品陳列台スケッチ/ロゴデザインとサイン計画
第10～17回	3. 飲食サービス業態の店舗設計	①飲食サービス業態の店舗リサーチ:レポート作成 ②店舗レイアウト、店舗ファサード計画、アフロチ部分、着座方式別のフロンテック・パターン ③カウンターの形状、客席に付帯する施設 ④ロゴデザインとサイン計画 成果物: レイアウト計画/ファサード計画案/店舗内スケッチ/ロゴデザインとサイン計画
第18～19回	4. 小規模店舗設計の概要	概要・教材・スケジュール・目標などを説明
第20～21回	5. 調査・分析	①商業施設内及び周辺店舗リサーチ
第22～27回	6. プログラミング(業態設定)	①ターゲット、MD構成などの設定
第28～33回	7. プランニング(イメージ・コンセプト)	①プランニング ②コンセプト・イメージ・ゾーニング・動線・空間構成等の検討
第34～46回	8. デザイン	①平面・展開・什器などのスケッチ等作成
第47～57回	9. ビジュアライゼーション 視覚化(図面・模型作成)	①ストアコンセプト・デザインコンセプト・MDコンセプト ②平面図・天井伏図・展開図・什器図 ③パース・模型など
第58～68回	10. プレゼンテーション(発表)	①成果物をもとに各自が作品についてのプレゼンテーション (自分の考え方を整理し、落ち着いて発表できるプレゼンテーション能力が必要とされる) →各作品に対する講評

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	3D・CG I	開講学科	スペースデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2026年度：1年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	米田広司(設計事務所を主宰する一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	3DソフトSketchUPのモデリング・レンダリング・ムービーの能力を学習する。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、3D・CGソフトを使うことによりプレゼンテーション時の表現能力を身に着ける。また、理解が出来たかを確認するため、小テストを実施して各自のスキルを確認できるようにする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2・3回	2. SketchUp・基礎概論 基本操作	SketchUpの基本環境設定と操作の基本 SketchUpの基本操作の練習1
第4・5回		SketchUpの基本操作の練習2
第6・7回		SketchUpの基本操作の練習3
第8・9回	3. SketchUp モデリング1	SketchUpによる住宅のモデリング基本1
第10・11回		SketchUpによる住宅のモデリング基本2
第12・13回		SketchUpによる住宅のモデリング基本3
第14・15回	4. SketchUp モデリング2	SketchUpによる店舗のモデリング基本1
第16・17回		SketchUpによる店舗のモデリング基本2
第18・19回		SketchUpによる店舗のモデリング基本3
第20・21回		SketchUpによる店舗のモデリング総合テスト
第22・23回	5. SketchUp モデリング 応用操作1	SketchUpのモデリング応用操作1
第24・25回	応用操作2	SketchUpのモデリング応用操作2
第26・27回	6. SketchUp ムービー	SketchUpのムービー・スタイルの基本操作
第28～30回	7. SketchUpプレゼンテーション	SketchUpのムービー・スタイルの応用操作とプレゼンテーション
第31～34回	8. プレゼンテーション 総合演習	プレゼンテーション総合演習(まとめ)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	空間表現	開講学科	スペースデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2026年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	吉竹 徹(店舗デザインを中心に商業施設・公共施設や住宅建築などの企画・デザイン・設計を行い、自らのデザイン事務所を20年主宰している、インテリアデザインの実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	スペースデザインに必要な空間感覚を身に付けるための、基礎的な造形力・構成力・デザイン力・伝達力を養い、縮尺に対する意識、審美眼の育成を実行する。「空間」と「造形」に対する基本的な理解と、実験的制作も通して個人の表現を成し遂げることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	空間表現を通して自己を見つめ、見ることや描くことの基本となる造形力を養うことができる。発想した形態・空間、又は身の廻りの形態・空間をスケッチ・パース・図面・模型を使い、手の動きから生まれる表現力をみがく。実験的制作も通して個人の表現を成し遂げることを目標とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	オリエンテーション、基礎的な道具の扱い
第2～12回	課題Ⅰ	課題/日替わりドローイングⅠ 表現方法/ドローイング:シャープペンシル・鉛筆・ペン・色鉛筆など線表現 実践① ※郊外スケッチ(建築)
第13～22回	課題Ⅱ	課題/日替わりドローイングⅡ 表現方法/ドローイング:シャープペンシル・鉛筆・色鉛筆、ペン・パステルなど色彩表現 実践② ※実店舗・施設スケッチ(ディスプレイ) 実践③ ※実店舗・施設スケッチ(インテリア)
第23～30回	課題Ⅲ	課題/造形による空間表現 ※実験的制作 素材/段ボール(紙) 基底材/紙・段ボール・キャンバス・板・その他 表現方法/シャープペンシル・鉛筆・クレヨン・パステル・水彩表現、ミクストメディアなど デザイン表現
第31～34回	講評会	上記全ての課題を統合したプレゼンテーション
	その他	課題/準備学習 日々、手と頭を動かし(1日10分程度でも、) 日常の中に見えるものを観察、 デザインに関わる基礎的な知識を深める

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	課題研究	開講学科	スペースデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(148時間)	開講・履修期	2026年度：1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉竹 徹（店舗デザインを中心に商業施設・公共施設や住宅建築などの企画・デザイン・設計を行い、自らのデザイン事務所を20年主宰している、インテリアデザインの実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築・インテリアに関する展覧会や作品見学、およびショップデザインや商業施設などの現地調査・分析などを行う。建築インテリア及び商空間に関する自分の見聞を広げることで、優れた作品を生み出すための知識と感性を磨き、課題制作に生かすことを目的とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考施設の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2～6回	① ショップデザインや商業施設の調査・分析	ショップデザインや商業施設を実際に見て調査し、「魅力ある商空間」を設計するための参考にする。
第7～11回	対象作品のリストアップ	専門雑誌や作品集等の資料から、各自が興味を持った作品をリストアップし、調査する対象作品を決定する。
第12～20回	対象作品の現地調査	対象作品を実際に現地で調査し、必要に応じて、写真撮影やスケッチをして記録する。
第21～27回	調査結果のまとめ	現地調査した結果をレポートにまとめる。
第28～32回	調査結果の発表	進級制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第33～39回	② 進級制作のための調査	進級制作のテーマ設定の裏付けとなる調査を行う。
第40～46回	必要な資料の収集	進級制作を行うために必要な資料の収集を行う。
第47～56回	参考作品・展覧会の見学	進級制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第57～64回	調査結果のまとめ	調査した結果を企画資料としてレポートにまとめる。
第64～74回	制作作業	企画資料を踏まえた制作作業を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	ビジネス実務	開講学科	スペースデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・1年(後期)	講義区分	一般教養
教員紹介	上條 浩司(就職指導業務に従事した実務者が、経験を生かした授業を行う。)				
授業の到達目標	専門学校卒業後の進路を考え、就職活動に必要な基礎知識や履歴書の作成方法等を学ぶ。基本的な挨拶やビジネスマナー等の習得を目標とする。				
授業の概要及び特徴	オンラインでの講義形式を基本とする。ワークや提出書類などでキャリアについて自分の考えをまとめていく。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 第2回	就職ガイダンス	就職活動のスケジュール、インターンシップや就職活動準備について解説。 建築・インテリア業界、仕事の種類・仕事内容について解説。
第3回 第4回 第5回 第6回	働く目的と働き方 履歴書 エントリーシート	働く目的や働き方、仕事の種類について解説。 履歴書の目的、作成方法のポイントについて解説。 エントリーシートの目的、作成方法のポイントについて解説。 「自己PR」「学生時代に頑張ったこと」「志望動機」作成のポイントについて解説。
第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回	マナー ビジネスマナー	『メールのマナー』ビジネスメールのポイントについて解説。 『手紙のマナー』送付状、封筒宛名の書き方のポイントについて解説。 『電話のマナー』かけ方、話し方のポイントについて解説。 挨拶、コミュニケーションについて解説。 職場での対応について解説。 言葉使い、敬語について解説。
第13回 第14回 第15回	面接対策	面接の目的と具体的な対策について解説。 Web面接のポイント、個人面接、グループ面接の対策について解説。 グループディスカッション・グループワークの対策について解説
第16回 第17回	筆記試験対策	筆記試験・適性検査の特徴と対策について解説。 SPI、WEBテストの対策について解説。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅱ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・2年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	国府田 大輔(建築設計事務所で、住宅、教育施設、既存建築物の増改築など設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	公共建築の各施設計画における用語や基本的な考え方を理解する。そのうえで、実際の建築事例の平面図を用いて、計画学的読解力を高める。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、スライド・動画を示して説明する。最後に、演習問題を実施して理解度を確認する。また、具体的な建築事例について、平面図を分析するとともに、実際に視察することで、理解を深める。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス 教育施設	授業のテーマ・目標・スケジュール
第2回		保育所、小学校
第3回		・用語、寸法・面積、平面計画
第4回		・建築事例の平面図分析
第5回		・建築事例の施設見学
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回	文化施設	図書館、美術館、劇場
第11回		・用語、寸法・面積、平面計画
第12回		・建築事例の平面図分析
第13回		・建築事例の施設見学
第14回		
第15回		
第16回		
第17回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	環境工学	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・2年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 曲紀(エネルギー事業会社で、地域開発業務、戸建て・集合住宅等の企画・設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	快適な空間を理解し、自らそれを作り出すために、建築が人間に与える環境(熱・空気・光・音など)について工学的な基礎知識を学ぶ。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュール
第2回	太陽と地球1	太陽位置、地球の公転・自転、日照と日影
第3回	太陽と地球2	太陽からの放射と地球放射
第4回	太陽と地球3	地球の大気と気象
第5回	波の性質	波の性質、波としての音、波としての光
第6回	熱の性質	熱とは、熱の伝わり方
第7回	熱1	人体の熱収支、温熱快適要素、温熱快適指標
第8回	熱2	室内環境における熱収支、断熱、蓄熱
第9回	熱3	湿気、結露、対策
第10回	空気環境1	室内空気と汚染源
第11回	空気環境2	換気(目的、必要換気量、原理、種類)①
第12回	空気環境3	換気(目的、必要換気量、原理、種類)②
第13回	音1	音の強さ(物理量、知覚、伝搬)①
第14回	音2	音の強さ(物理量、知覚、伝搬)②
第15回	音3	音の計画(音の評価、環境振動・固体音、響き・知覚)①
第16回	音4	音の計画(音の評価、環境振動・固体音、響き・知覚)②
第17回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築設備	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・2年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	田中 佑介 2級建築士、設備設計事務所のチーフエンジニアとして、公共施設や商業施設等の設備・照明計画監理の実務経験を活かして授業を行う。				
授業の到達目標	建築設備の理解と職業の解説(建築設備はむずかしくないことを伝える) 主として戸建て住宅や集合住宅等に関する環境・設備の理解 その具体的な内容及び到達目標は別途資料であるルーブリック表を参照のこと				
授業の概要及び特徴	講義方式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。 またパワーポイントWEB等の教材を利用し、建築設備に関する実務の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	事例紹介 設備を学ぼう 建築設備エンジニアの道 建築設備士年収
第2回	空調・衛生・電気	校内・家の中にある設備を調査する
第3回	衛生設備	給水と排水 インフラについて 計画敷地の事前調査について
第4回	給水設備	給水方式 用語の解説
第5回	排水設備	排水設備 用語の解説
第6回	空調設備	室内環境 冷暖房 負荷計算
第7回	換気設備	冷暖房から空気調和へ 室内空気環境の基準 必要換気量の計算
第8回	空調設備のしくみ	ヒートポンプについて 冷熱源・温熱源装置等
第9回	電気設備(1)	電気はどこからやってくる？
第10回	電気設備(2)	電気を送るしくみ 強電設備
第11回	電気設備(3)	情報を通信するしくみ 弱電設備
第12回	電気設備(4)	電灯設備 配線について
第13回	防災設備	災害 火災 停電 自然災害
第14回	中央監視設備	中央監視と自動制御設備のはたらき
第15回	これからの建物づくり	ZEH ZEB HEMS BCP 環境性能とは
第16回	まとめ	
第17回	試験	

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	構造力学	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2026年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	初歩的な構造物を対象に力のつり合いについて学び、建物の骨組みのどこにどのような力が作用しているかの解法を身につける。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とし、演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	構造力学概論	構造力学の流れ、モデル化、接合条件と支持条件、構造物の分類
第3回	力の基本	力、モーメント、偶力
第4回		合成と分解・計算方法
第5回		分布荷重の合成
第6回		つりあい力算定①
第7回		つりあい力算定②
第8回	静定構造物の反力1	反力算定(単純梁1)
第9回	静定構造物の反力2	反力算定(単純梁2)
第10回	静定構造物の反力3	反力算定(単純梁3)
第11回	静定構造物の反力4	反力算定(単純梁4)
第12回	静定構造物の反力5	反力算定(片持ち梁1)
第13回	静定構造物の反力6	反力算定(片持ち梁2)
第14回	静定構造物の反力7	反力算定(はね出し梁1)
第15回	静定構造物の反力8	反力算定(はね出し梁2)
第16回	静定構造物の反力9	反力算定(ラーメン1)
第17回	静定構造物の反力10	反力算定(ラーメン2)
第18回	静定構造物の反力11	反力算定(トラス)
第19回	静定構造物の応力1	応力概説、算定手順
第20回	静定構造物の応力2	応力算定(片持ち梁1)
第21回	静定構造物の応力3	応力算定(片持ち梁2)
第22回	静定構造物の応力4	応力算定(片持ち梁3)
第23回	静定構造物の応力5	応力算定(単純梁1)
第24回	断面の性質	断面一次モーメント
第25回		断面二次モーメント
第26回		断面係数
第27回	座屈	
第28回		
第29回	応力度	垂直応力度、せん断応力度、曲げ応力度
第30回		
第31回		
第32回	不静定構造物	たわみ、たわみ角
第33回		
第34回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築材料	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・2年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	篠原 範之(建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	使用する材料の選択は重要である。意匠面だけでなく、安全性や耐久性という建築の性能に関わる。材料に実際に触れる機会を設け、卒業後に設計の現場において適切な材料の選択ができる能力を養う。材料同士の取り扱い、おさまりについても学ぶ。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とし、教科書その他スライドや配布プリントを使用。テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容		
第1回	建築材料の概要	①建築材料の歴史 ②建築材料と規格		
第2回	木 材	①日本建築と木材	②木材の種類	③木材の特徴
第3回		④木材の強度	⑤木材の構造	⑥木材と水分
		⑤木取り、規格、等級	⑧エンジニアリングウッド	
第4回	コンクリート	①コンクリートとは	②セメント	③骨材
第5回		④水	⑤混和材料	⑥コンクリートの性質
		⑦調合設計	⑧コンクリートの種類	⑨コンクリートの製品
第6回	鋼 材	①鉄の歴史	②鋼材とは	③製鋼の工程
第7回		④鋼材の特徴	⑤鉄鋼の種類	⑥鋼材の性質
		⑦鋼材の腐食と防食	⑧鋼材の規格	⑨非鉄金属
第8回	焼成品	①焼成品は焼き物	②タイル	③れんが
第9回		④瓦	⑤衛生陶器	
第10回	ガラスと石	①ガラスとは	②ガラスの歴史	③ガラスの特徴
第11回		④ガラスの種類	⑤石材とは	⑥石材の特徴
		⑦石の分類		
第12回	左官材料・ ボード類	①左官とは	②左官の起源と定義	③左官の特徴
第13回		④近年の左官仕事	⑤左官の種類	⑥ボード類
第14回～ 第17回	その他の材料	①プラスチック材料 ④造作材 ⑥建具	②塗料 ⑤屋根材・防水材・断熱材	③接着剤

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築法規	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2026年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	国府田 大輔（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築・インテリアを構成する一つの要素でもある法規は、現実社会との接点である。建築法規を、身近な存在として親しみを持ち、理解を深めることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	法令集のつくり方(インデックスの貼り方、アンダーラインの引き方)
第2回		
第3回	用語の定義	建築物、特殊建築物、居室、主要構造部、構造耐力上主要な部分、
第4回		建築・大規模な修繕・模様替、延焼のおそれのある部分、耐火・準耐火建築物
第5回	面積・高さの算定	敷地面積、建築面積、床面積、延べ面積、高さ、階数
第6回		
第7回	敷地と道路	道路の定義、接道義務、道路内の建築制限、壁面線の指定
第8回		
第9回	用途地域	用途地域の建築制限
第10回		
第11回	建蔽率	建蔽率の定義と算定方法
第12回		
第13回	容積率	容積率の定義と算定方法
第14回		
第15回	高さ制限	絶対高さ制限、道路高さ制限、隣地高さ制限、北側高さ制限
第16回	確認申請・手続	確認申請、完了検査、中間検査
第17回		
第18回		
第19回		
第20回	採光	採光有効面積
第21回		
第22回		
第23回	換気・シックハウス	換気、換気設備、シックハウス対策
第24回		
第25回		
第26回	天井高・階段	天井の高さ、床の高さ、階段、便所
第27回		
第28回		
第29回	耐火・防火	耐火建築物等としなければならない特殊建築物
第30回		
第31回		
第32回	防火・準防火地域	防火地域・準防火地域
第33回		
第34回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅱ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2026年度：2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	篠原 範之(建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	鉄筋コンクリート構造の基本や特徴を、実際の図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、さらに手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	鉄筋コンクリート造	図面の名称・内容、図面の読み方、図面を描く上での注意点
第3回	設計製図課題	配置図・1階平面図講義
第4回～ 第13回		配置図兼1階平面図作図演習① 配置図兼1階平面図作図演習②
第14回		基準階平面図講義
第15回～ 第22回		基準階平面図作図演習① 基準階平面図作図演習②
第23回		断面図講義
第24回～ 第34回		断面図作図演習① 断面図作図演習②

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD製図Ⅱ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度：2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	米田広司(設計事務所を主宰する一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	ArchiCADを学習しBIMによる設計システムを理解する。基本的CAD・BIMシステムを理解できるようにする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、図面を作成する過程で各種のコマンド操作やCAD・BIM図面の作図方法を学ぶ。また、他の3D・CGソフト及びプレゼンテーションソフトとのリンク方法を学ぶ。理解が出来たかを確認するため、小テストを実施して各自のスキルを確認できるようにする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. ソフトインストール	各アプリケーションソフトのインストール
第3回～ 第6回～ 第8回～	3. ArchiCAD 学習方法 4. ArchiCAD 基本操作	ArchiCADの学習目的・学習方法 ArchiCAD基本操作1 ArchiCAD基本操作2
第12回～ 第15回～ 第17回～	5. ArchiCAD 基本作図練習	ArchiCAD 建築図面作成(平面計画の3次元リンクの学習1) ArchiCAD 建築図面作成(平面計画の3次元リンクの学習2) ArchiCAD 建築図面作成(平面・立面・断面・3次元の関係性の学習)
第19回～ 第21回～ 第24回～	6. ArchiCAD 応用作図練習	ArchiCAD 建築図面作成(作図と3次元のレンダリングシステムの学習1) ArchiCAD 建築図面作成(作図と3次元のレンダリングシステムの学習2) ArchiCAD 建築図面作成(作図と3次元のレンダリングシステムの学習3)
第28回～ 第31回～ 第33回～ 第35回～ 第37回～ 第39回	7. ArchiCAD プレゼンテーション 8. BIM・3D-CADのまとめ	ArchiCAD 建築図面作成(プレゼン方法の学習①) ArchiCAD 建築図面作成(プレゼン方法の学習②) レンダリングシステムの基本1 レンダリングシステムの基本2 BIMシステムのまとめ 3D-CADシステムのまとめ
第41回～ 第44回～ 第47回～ 第50回～ 第53回～ 第56回～ 第60回～	9. 他の3Dソフトとの連携	ArchiCADと他の3Dソフトとの連携システムの学習 ArchiCADとSketchUPとの連携システムの基本学習1 ArchiCADとSketchUPとの連携システムの基本学習2 Twinmotionの基本操作の学習 TwinmotionとSketchUPの連携と操作の学習 TwinmotionとArchiCADの連携と操作の学習 他の3Dソフトと連携した総合的プレゼンテーションの学習
第63回～ 第66回～ 第68回	10. 総合的プレゼンテーション 11. BIM・CADシステムのまとめ	3D・CG、ムービーを使い総合的プレゼンテーションの学習1 3D・CG、ムービーを使い総合的プレゼンテーションの学習2 総合的にBIM・CADシステムの活用・応用方法を理解する

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	インテリアデザインⅡ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度・2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉竹 徹(店舗デザインを中心に商業施設・公共施設や住宅建築などの企画・デザイン・設計を行い、自らのデザイン事務所を20年主宰している、インテリアデザインの実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	立地周辺の調査・分析、設計条件の把握、ターゲットの設定、コンセプトの策定から平面図・天井伏図・展開図(断面図)・立面図(ファサード)、パース・模型作成に至る一連の実践的デザインを行い、多様な空間デザインの経験と基本スキル取得を目的とする。また卒業制作に関連する事前調査及びとりまとめなどを行い、公共・商業施設等の空間デザインに関して新たな知識と経験の取得も目指す。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考施設の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドや動画などの教材を利用した講義形式の授業を行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・スケジュール・評価方法などを説明
第2～11回	① ポップアップショップ(調査・研究)	実施施設・店舗等のリサーチ、街・店・人の調査、研究、レポートの作成。
第12～24回	ポップアップショップ(オリジナル課題)	企画立案、施設名、デザイン、設計、制作。プレゼンボード作成。
第25～30回	ショップデザインの企画・デザイン・設計①	調査・企画立案の作成、補講を行う。
第35～40回	ショップデザインの企画・デザイン・設計②	デザイン・設計、プレゼンテーションの補講を行う。
第40～43回	② 卒業制作のための各施設調査	卒業制作の調査/考察(商業施設・公共施設・宿泊施設など)資料の作成を行う。
第44～47回	類似作品のリストアップ	過去作品や雑誌掲載作品等をリストアップし研究する。
第48～51回	卒業制作のための企画書作成	卒業制作の企画書の作成を行う。
第52～59回	卒業制作のためのゾーニング～エスキース作成	卒業制作のゾーニング～エスキースの作成を行う。
第60～68回	制作作業	企画書・ゾーニング～エスキースを踏まえた制作作業を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	設計演習Ⅲ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位（136時間）	開講・履修期	2026年度・2年（前期）	講義区分	専門実技
教員紹介	細村研一（実務経験を持つ一級建築士であり、建築設計事務所で、主に事務所・店舗テナントビル・集合住宅・学校等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。） 栗山雅之（実務経験を持つ一級建築士であり、インテリアデザイン事務所、設計施工会社企画設計部で、主にホテル・商業施設・店舗等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	「設計演習Ⅲ」では、リサーチからプレゼンテーションまでの実務に即したプロジェクトフローに基づき宿泊施設の建築計画を理解することを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外活動も行う。また、作品は主にグループワークによるものであり、コンセプトを具体的な空間にまでつくり上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1～4回	1. ガイダンス、複合商業施設の概要	① 宿泊施設の概要説明、事例研究
第5～8回	2. 宿泊施設の考え方	① コンセプト／プランニング／デザインの解説
第9・10回	3. 宿泊施設の設計	① 課題説明
第11～16回	4. 調査・分析	①② 計画地リサーチ／類似施設調査
第17～20回	5. プログラミング（設計条件の設定）	①② 法的条件チェック 施設構成、機能の設定
第21～32回	6. プランニング（イメージ・コンセプト構築）	①② プランニング コンセプト・イメージ・ゾーニング・動線・空間構成等の検討
第33～48回	7. デザイン（建築・インテリア計画）	① 平面・立面・ボリュームスケッチ等作成
第49～64回	8. ビジュアルライゼーション 視覚化（図面・模型作成）	①②③ コンセプト・計画概要・配置図 各階平面図・立面図・断面図 外観パース・内観パース・模型
第65～68回	9. プレゼンテーション（発表）	① 成果物をもとに各自が作品についてのプレゼンテーションを行なう。 （自分の考え方を整理し、落ち着いて発表できるプレゼン能力が必要とされる） 各作品に対する講評を行なう。

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	デジタルプレゼンテーションⅡ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2026年度:2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也（実務経験を持つ商業施設士であり、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	「illustrator」「photoshop」の操作習得を通し、商業デザイナーとして効果的なビジュアル計画を構築する能力を身に着ける。また、デジタルツールを横断的に使用し、計画・提案を他者への確に伝えるプレゼンテーションスキルの習得を目指す。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、ショップデザインⅡの課題と連動しながら、実務において汎用性の高い「illustrator」「photoshop」の操作習得をする。また、今までに習得したデジタルツールを横断的に活用し、ポートフォリオの作成を通じてプレゼンテーションスキルの向上を図る。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	・授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回～	2. ヴィジュアルデザインの概要	・商業デザインにおけるヴィジュアルデザインの役割と領域
第3回～	3. ロゴデザイン	・Illustratorの基本操作 ・ロゴデザインの考え方 ・Illustratorを活用したロゴデザイン
第6回～	4. サインデザイン	・サインデザインの考え方・計画 ・商業施設におけるサイン計画事例 ・Illustratorを活用したサインデザイン
第10回～	5. サイン計画の実践	・設計Ⅲの課題と連動しサイン計画を行う。
第24回～	6. デジタルプレゼン(1)	・Photoshopの基本操作 ・背景、添景、人の合成 ・手描き風写真加工
第27回～	8. デジタルプレゼン(2)	・プレゼンテーションの基礎 ・プレゼン資料のレイアウト ・プレゼン資料のデザイン(トーン&マナー)
第28回～ 第34回	9. デジタルプレゼン実践	・ポートフォリオの作成

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	家具デザイン	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2026年度:2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉竹 徹（店舗デザインを中心に商業施設・公共施設や住宅建築などの企画・デザイン・設計を行い、自らのデザイン事務所を20年主宰している、インテリアデザインの実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	日々の暮らしや仕事、交流や休息の場面を支えている家具。家具の3要素である「強(堅牢・丈夫)/用(機能・使いやすさ)/美(美しさ・快適さ)」を基軸に、課題に取り組むプロセスのなかで、発想力を磨き上げることを学びます。その集大成として、自身でデザインした家具の企画書・設計図・3D・模型を製作し、最終プレゼンテーションを行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、実物調査や専門機関の見学など、原寸レベルでの体験授業なども適宜取り入れる。また、スライドを用い、実現場で行われている内容を講義形式で行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。調査と体験からコンセプト・デザイン・設計を家具のカタチにまで造り上げ、プレゼンテーションすることにより、最終では期限内に作品を完成させることを最優先として、スケジュール管理も個々行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 第2回～	1. ガイダンス /講義	家具デザインとは(概論) 家具の実例をもとに、「強・用・美」から学ぶ家具の基礎概論 ※基礎概論～強度・人間工学と用・美しいということ・スタイルの調和
第4回 第5回～	2. 実物(体験)調査 /プレゼンテーション	「名作家具から学ぶ」モダン家具のデザインを実体験 ※プレゼンテーション形式による、レポート作成
第11回～ 第15回	3. 課題演習Ⅰ /講義	「家具デザイン課題演習Ⅰ」 制作フロー～発想原点・テーマと造形・モックアップ制作・作図・プレゼンテーション
第16回	A インテリア専門機関研修	インテリア関連専門機関(ショールーム)にて素材研究/体験授業研修
第17回～ 第19回～ 第22回～	4. 課題演習Ⅱ 5. 家具企画案 6. 設計図書製作① 設計図書製作② 設計図書制作③	「家具デザイン課題演習Ⅱ」 ラフスケッチによる、アイディア出し、コンセプト作成 コンセプト・家具三面図・3D等、プレゼンボード作成① コンセプト・家具三面図・3D等、、プレゼンボード作成② コンセプト・家具三面図・3D等、、プレゼンボード作成③
第27回	7. /中間プレゼンテーション	中間プレゼンテーション、中間講評会
第28回～	8. 家具模型製作① 家具模型製作②	家具、模型製作① 家具、模型製作②
第32回～	9. 最終プレゼンテーション① 最終プレゼンテーション②	プレゼンテーション、個別作品講評会① プレゼンテーション、個別作品講評会②
第34回	10. 最終講評会	各作品全体講評会、家具デザインのまとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	パース演習Ⅱ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2026年度:2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	前島 和也(パース事務所を主宰する実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築やインテリアの設計プロセスにおける空間のイメージスケッチや完成予想図としてのパース(透視図)アイソメ(鳥瞰図)の作成技法向上を実践的に目指す。実技科目課題と連動させ、空間表現を手描きを通じてデザインを考えるところから、表現の幅を個々みつけることを目指すものである。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	デザイン課題実習、技法・研究、及びとりまとめなどを主とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教材・スケジュール・評価方法などを説明
第2～7回	1、ポップアップショップのスケッチを描く	ポップアップショップのデザイン・イメージ・アイディアの創造や見え方・提案がわかるスケッチを多く描き、自らの考えを伝達する空間表現を身につける。
第8～15回	2、ポップアップショップのパースを描く	①設計演習Ⅲと連動し、グループ内でデザイン・設計したホテルの着彩パースを描く。イメージスケッチ、下絵、インキング、着彩まで一通りのスキルを身につける。
第16～23回	3、ホテル(外観・エントランス・インテリア等)のスケッチを描く	ホテルのデザイン・イメージ・アイディアの創造や見え方・提案がわかるスケッチを多く描き、自らの考えを伝達する空間表現を身につける。
第24～34回	4、ホテル(外観・エントランス・インテリア等)のパースを描く	①設計演習Ⅲと連動し、グループ内でデザイン・設計したホテルの着彩パースを描く。イメージスケッチ、下絵、インキング、着彩まで一通りのスキルを身につける。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	課題研究	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(148時間)	開講・履修期	2026年度：2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也（実務経験を持つ商業施設士であり、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築インテリアに関する展覧会や作品見学、およびショップデザインや商業施設などの現地調査・分析などを行う。建築インテリア及び商空間に関する自分の見聞を広げることで、優れた作品を生み出すための知識と感性を磨き、課題制作に生かすことを目的とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考施設の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2～6回	① ショップデザインや商業施設の調査・分析	ショップデザインや商業施設を実際に見て調査し、「魅力ある商空間」を設計するための参考にする。
第7～11回	対象作品のリストアップ	専門雑誌や作品集等の資料から、各自が興味を持った作品をリストアップし、調査する対象作品を決定する。
第12～20回	対象作品の現地調査	対象作品を実際に現地で調査し、必要に応じて、写真撮影やスケッチをして記録する。
第21～27回	調査結果のまとめ	現地調査した結果をレポートにまとめる。
第28～32回	調査結果の発表	進級制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第33～39回	② 卒業制作のための調査	卒業制作のテーマ設定の裏付けとなる調査を行う。
第40～46回	必要な資料の収集	卒業制作を行うために必要な資料の収集を行う。
第47～54回	参考作品・展覧会の見学	卒業制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第55～60回	調査結果のまとめ	調査した結果を企画資料としてレポートにまとめる。
第61～74回	制作作業	企画資料を踏まえた制作作業を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	卒業制作	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度・2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	細村 研一（実務経験を持つ一級建築士であり、建築設計事務所で、主に事務所・店舗テナントビル・集合住宅・学校等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。） 石原 将也（実務経験を持つ商業施設士であり、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	「卒業制作」では、集大成として各学生が自由なテーマを設定し、リサーチからプレゼンテーションまでの実務に即したプロジェクトフローに基づき計画を進める。テーマに関しての情報収集・処理能力や具体化への企画構想力、プログラムにたいしての的確な判断力、プランニング・デザインにおける豊かな想像力、造形力、ビジュアライゼーション・プレゼンテーションにおける表現力等をやしなうことを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものである。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1～4回	1. ガイダンス、テーマ設定	卒業制作の目的・テーマ設定に関する考え方・昨年度のテーマ事例・今後のスケジュール・作業内容についての概要説明
第5～10回	2. 主要テーマに関する基礎講義	都市における商業機能と場・空間について考える。都市的な視点からの街づくりから複合商業施設、市場、路面店、露天商(屋台)まで様々なスケールでの可能性を探る
第11～15回	3. リサーチ(調査・分析)	テーマに関する資料収集 計画地・周辺環境の調査・分析
第16～21回	4. プログラミング(設計条件の設定)	敷地設定・敷地条件確認 敷地規模設定・ボリュームチェック 施設構成(平面・タテ)・ターゲット設定
第22～30回	5. プランニング(イメージ・コンセプト構築)	イメージスケッチ・イメージ写真 コンセプト・キーワード設定 配置計画・ゾーニング計画 スペース計画・(各室用途・規模) 構造計画 動線計画・基本レイアウト計画
第31～40回	6. デザイン(建築・インテリア計画)	デザインスケッチパース(全体・部分) 平面計画(各階) 立面計画(4面) 断面計画(2面) 配置計画(敷地+屋根伏せ) 色彩計画(内外装仕上げ) インテリア計画(家具・造作) 外構・緑化計画 面積表
第41～63回	7. ビジュアライゼーション(視覚化(図面・模型作成))	設計主旨・イメージ写真 平面図 立面図 断面図 内観パース・外観パース 模型
第64～68回	8. プレゼンテーション(発表)	成果物をもとに各自が作品についてのプレゼンテーションを行なう。(自分の考え方を整理し、落ち着いて発表できるプレゼン能力が必要とされる) 各作品に対する講評を行なう。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週